

阿真集落の区長の呼び掛けで忘年会ならぬ望年会をやるので出席されたしとの案内状が届いた。開催の趣旨は「二〇〇〇年ミレニウムを迎えるに当たり、志を一つにするものが堂に会い、村づくりについてお互いにユタク（フリートキング）をしよつひのよである。当田の看板には「温故知新」と書いてある。三十一、四十人の有志が集まっている。主催者の言によると初めての試みで急な呼び掛けにも拘わらず予想以上の集まりであるという。

私の役割は、座間味村の千年の歴史を振り返り、将来についてユタクをしることである。催しの素晴らしい胸の高鳴りを抑えつつ、概ねつぎの内容で口火を切った。

本村は十四世紀半ばから十八世紀後半までの琉球王朝・大交易時

代には多くの船頭を輩出し、豊かな地域と船頭を中心に村人たちが挙つて快適な集落を形成したこと、また今世紀初期には松田和三郎初代村長が鯉節の製造方法を沖縄全土に広め、ケラマ鯉として全国市場を賑わせたことはよく知られていることである。

ここで我々が先達の偉業から学ぶことは、鯉節製造工程に発生する残渣を村民に等しく分配し、農・畜産業を盛んにしたこと、また、製造に当たっては、組合員以外の家庭から臨時雇用し、鯉産業を村民総参加の産業に育て上げたことである。このように村おこしは、より多くの者が課題に対して常に共通の理解・認識、いわゆる共通土俵を形成することが肝要であるとされる。

本村は県都那覇市に近く、自然



座間味村長

仲村 三雄

エコロジー・アイランドへの挑戦 ～村おこしについて～

が残っている、珊瑚礁の発達により海中景観が素晴らしい等々で、ダイビングの客を中心に観光産業が発展し、基幹産業となっている。この基幹産業・観光産業を持続的に発展させ、活力のある村を実現していくには、観光産業に農・水産業をリンクさせ、産業の複合化、総合化を図り、村民総参加の仕組みを作るべく、「エコロジー・アイランド」の創造に向けて取り組みを開始したところである。

エコロジー・アイランドとは、先ず、自然環境はもとより産業教育福祉文化の向上、並びに集落景観の形成等、総合的な環境の維持・増進を図る、いわゆる環境にやさしい村づくりを推進し、誰もが住みたい村、行きたい村を創造することであり、その実現に向けては、村民の英知を結集し、地域特性を活かした地域づくりを徹底することであると考える。地域特性を活用した身近な事例としては、昨年の各屋敷にハイヤの二本植え付け運動が上げられ、それはハイヤの植え付けに際し、ハイヤの発育を妨げるウィルスをもつ村民の総意により撲滅したことと各家庭から排出する生ゴミをEM技術により肥料化し、栽培に使用したことである。特に、ウィルスの撲滅作戦はウィルスをもつ昆虫類の飛来距離が二キロメートル以内という習性を利用した離島特性を活用したものである。しかしながら、地域特性には負の特性もある。例えば、農地が狭く、点在し纏まりがないと言つ場

合等には、その整備に際しては、規制緩和の進む中にあつても、なお制度のハードルを越えきれないこともあるので、活力ある村づくりに、先達の心意気を知る皆さんのご奮闘を期待する。

止まることを知らないユタクに、我れ先に発表が行われる中で、往時の鯉漁の全行程の映写を準備してきた者、これからの作目はハープに限ると山羊汁の薬味に自家製ハープを提供する者等、山羊汁を肴にアルコールメーターの高まる中、エコロジー・アイランド創造への確かな足音を聴き、今年は二十一世紀への強固な架け橋を築き上げる年としたい。

